

〈鼎談〉

災害の歴史から学ぶ

～『日本歴史災害事典』刊行によせて～

子 欧
糸 律
原 浦
北 松
木 村

3・11と私

——本日は『日本歴史災害事典』刊行記念として、編者の先生方にお話を伺います。まず、ご専門と、東日本大震災のとき何をされていたかお話しただけですか。

北原 紆余曲折の末、歴史学を勉強して、江戸の都市下層社会のことを研究していました。災害の時に一般の人々がどうしたのかを知りたくて安政江戸地震の資料を探していたら、東京大学の地震研究所で宇佐美龍夫先生が『新収日本地震史料』を編纂しているところに出遭いました。そこで資料整理のアルバイトをすることになり、資料を読んでいたら『安政大地震と民衆』という本ができてしまった。それが災害史に入るきっかけです。

東日本大震災の時は、デパートにいました。今まで経験したことのないゆつたりした変な揺れ方で、大変気味が悪かったです。テレビで畑に黒い津波が押し寄せる映像を見て、本当にショックでした。東北へ行かなければいけないとすぐに思いました。災

害史研究はここでもまた大転換するなという感じはありました。

木村 私 は心理学を専門にしています。災害の中で人間の心理や行動、社会がどのように影響を受け、それをどのように乗り越えていくのか。復旧、復興について研究しています。災害に興味をもったきっかけは一九九五年の阪神・淡路大震災です。西宮市にいた親戚の家が全壊して、疎開してきて、元気で明るかったおばさんが部屋に閉じこもって出てこなくなってしまうたり、災害はこんなに大きなインパクトを人々に与えるのかと思いました。

東日本大震災の時には兵庫県姫路市の自宅にいました。いつかは起きると言われていたことが、東日本でついに起こったのだと、大きな衝撃を受けました。先週も岩手県宮古市で仮設住宅の調査をしていたのですが、今回の災害が国・地域・人々に与えた影響は大きいです。複数県にまたがる広域災害は、高度成長期以降の日本にとっては初めての経験です。今まだ復興に至るところまで進んでいない状況で、私も研究者

として一緒に進んでいきたいと思っていますところなんです。

松浦 この中で一人だけ理系で、その中でも、工学と違い役に立たない理学で、歴史地震（編集部注：近代的な観測機器のなかった時代に古文書などの記録に残された地震）を研究してきました。

もともと私は、地震が時間的、空間的によろしく起こるかという、地震活動から発生予測や物理的メカニズムを探ってきました。その手法で歴史地震を系統的に分析するということを本格的にやるきっかけになったのは、一七六六年の明和津軽の地震です。予想される震源域が大きく、津軽藩の日記には地震のことがよく記録されていて、組（当時の行政単位）ごとの被害率が



北原糸子

分かりました。これを徹底的に追究して分布図にし、断層のこの辺が動いたのだろうという結果を出すことができました。

今回の東日本の時は東京神田の猿樂町のオフィスにいました。いつも揺れの時間差で震源距離がどの辺か測り、そろそろ揺れ終わるなと思うのですが、今回は、震源は何なのだという気がするほど長く揺れました。でも気象庁のマグニチュードがいやに小さい。気象庁は「大津波」というような定性的警報を地元の気象台が出す代わりに、「三メートルの津波」のような量の警報を東京と大阪で中央集権的に出すことに合理化してしまつたので、体感した揺れを生かさないうでマニュアル通りに三分間で過小評価の津波警報を出してしまつたのです。そのため防潮堤で大丈夫と思い、高台へ避難せず亡くなった方がずいぶんいたのが非常に残念でした。

阪神・淡路と東日本

北原 歴史サイドから災害を研究すると、大きい災害ほど、社会の断面が見えます。

社会全体がそのために動きますので、普段はあまり見えない社会の深部や人の動きも見えます。

たとえば濃尾地震でも、政界のトップの人たちはもちろん、国家そのものが動きました。三日後ぐらいに松方正義首相が、途中で電車で、あとは馬で現地に入った。義捐金もたくさん集まりました。メディアも近代になりますといういろいろな情報を流します。それに対応する人たちの心持ちもわかります。

明治三陸津波も被害が大きいのですが、沿岸部の被災地に行くまでに、今でも車で二時間ぐらいかかりますから、当時はとても大変でした。新聞の災害報道の記者も、政府の人と一緒に車や馬車に乗せてもらい、情報収集しました。

——阪神・淡路と東日本では本質的な違いはありますか。

北原 阪神・淡路の評価が、今どうなっているのか、私にはよく分からないのです。何かまとまらない、まとめようとする社会の動きがないまま東日本を迎えた。



松浦律子

いろいろな要因があるわけです。今回、東日本大震災のような広域の災害という事例が出てきて、これから研究としては阪神・淡路や新潟県中越のような内陸型の地震と、広域の海溝型の地震を比較しながら、防災や復旧・復興にどう生かすかを提案していくことになると思っています。

北原 阪神・淡路のあと、復興資金も新しい救済措置もたくさん起きました。大きく社会全体が動いた災害だと思います。なのに、義援金の額とか、罹災証明をもとにした生活再建支援金とか、そういうさまざまなものが起きたわりには全体として、阪神はいつたいたったのか、一般の人に分かりやすいような形でイメージが伝わってきません。ボランティア元年というレベルでしか伝わらない。今回の事典を編纂していても、阪神に関してはイメージが築けないのです。

木村 阪神・淡路の時はやはり内閣や行政が弱体でしたよね。当時の神戸市長、防災担当だった大臣、それぞれの立場にいてやらなければいけない人にその能力がない

状態で起きてしまったのです。

けれども、発生時刻は朝の五時四十六分で、まだ電車やバス、人間がそれほど動いていなかった。あれが通勤ラッシュの八時半、あるいは、デパートが満員になる一時間ぐらいに起きていたらどうなってしまうていたか。そう考えると、不幸中の幸いと言うような時間に発生しているのです。

今回の東日本も、内閣は政治的に何も決められずに低迷していて、復興が順調ではありません。原子力事故でも事故調査委員会が三つも立ち、とりあえず検証はしようということになっていますが、議事録がないとか、とんでもない事態になってしまっています。でも起きた時間としては、津波が来たのが夜ではなくまだ明るいうちですから、最悪の時間ではなくて済んでいます。

国家と個人

北原 復興の資金はものすごく問題を抱えていて、東日本の現場ではたくさんお金が出てるように私たちは思いますが、個人で使うお金ではないのです。

を与えると思っています。

けれども、国家は個人には直接資金を与えないのが原則ですから、復興住宅や復興仮設店舗なども県が請け負い、県の資産として取り扱われる。そして、実際に個人が家を建てる場合も県が国からお金を借りて作るの、個人の名前に切り替わるまで、公的な縛りがずっと続きます。

木村 地域にはお金が落ちているのですが、実際に受注しているのは東京に本社があるゼネコンだったりするわけで、そのゼネコンが孫かひ孫請けで地元の企業を使います。ですから、地域にお金を落とせば地域の経済が潤って個人にお金が行くと思うのは短絡的な理解です。

法体系を少しずつ改正して、生活再生支援金も家の一部に使えるようになりましたが、まだまだ、個人の生活再建という意味では国の制度は整っていません。

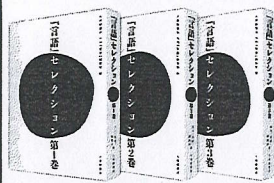
松浦 一八九四年の庄内平野の地震の時に天皇の御下賜金がありました、天皇からいただいたお金を不公平に配ってはいけないので、被害調査が正確なのです。天皇のおかげで資料が残っているなんて喜んでしまふのですが(笑)。

それから明治三陸沖の時には、濃尾地震の経験があつて農家の再建は制度としてできていました。けれども、明治三陸で被災したのはほとんどが漁民で、欲しいのは船なのに、救済金で船は買えないわけです。

言語研究の38年がここに結実。

『言語』セレクション 全3巻

大修館書店 月刊『言語』編集部 編



言語研究者をはじめ、生物学、脳科学、社会学、文学、コンピュータ・サイエンスらの専門家が集い、今まさに「言語」という名のリング上で(異種格闘技)が始まろうとしている。本セレクションには、月刊『言語』誌に掲載された論考の中から、これからの言語研究を展望する123本を収める。

●各巻・定価2310円(税込み)

ご注文は: 03-3868-2651(販売部)
http://www.taishukan.co.jp

大修館書店



木村玲玖

するとそれを見かねた横浜の居留地にいた外国人たちが募金をして、とにかく漁民は船を与えれば立ち直れるのだからと言って船を贈るのです。

天皇の御下賜金とか財閥の寄付金とか、そういう資金が、戦前は日本にもあったのです。戦後、世界に類を見ないぐらい平等な社会にはなったのですが、どーんとお金を出す人もいなくなってしまうので、公平にやってきたところで出てくるひずみを埋める埋めしろが、日本には今ありません。北原 そうですね。歴史的には庄内より前に濃尾の磐梯山の時に御下賜金が、今から見ればわずかですが三〇〇〇円出ました。死亡者が五〇〇〇人の災害ですので、ごく有効に使われたのです。

政府も、濃尾地震と三陸の津波ではそれまでの備荒儲蓄金という農民の救済を基本にした法律を変えて罹災救助基金を作り出す。これは戦後の災害救助法まで続くのですが、罹災救助基金は食糧費から避難所費、就業費まで全部含まれます。そして、関東大震災の時には後藤新平配下の官僚たちの知恵で、非常に上手に義援金を地方で先行して使って、のちに罹災救助基金として組み入れる法的措置を講じています。

そういうことを戦後に求めるのは法体系が違うので無理かもしれません。けれども戦後の新しい憲法は、南海地震からの救済と戦災の復興とを兼ねて作られたという考え方があります。つまり、基本的な人権を守るという視点から災害の基本的な救済はできるという、災害立法の要素もあるのだという話を法律の人から聞きました。そういう説は歴史学の方ではあまり出されていません。

——昔のほうが救済がうまくいっていたということでしょうか。

松浦 やはり権力が集中していますから

リーダーシップが存在したのです。今の日本の民主主義は、結果の平等を幻想として持っています。民主主義というのはスタンラインに平等に立てればいいはずなのですが、そうではなく結果の平等を求めるのがんじがらめになって、横並びで誰もリーダーシップを取らない。やってしまえばいいことがなかなかできず、時期を逸して症状が悪くなってしまう。

北原 表面と言いますが、見えるところを平等にして、実際には大きな差異があるのには目をつぶるという構造だろうという気がしています。みんな不満を持ちながら形としては同じところにいる幻想を持たせられるようになっていく感じがします。

松浦 それが災害などでは、家を持っていて人と持っていない人など、あからさまに出てしまいますよね。

北原 阪神・淡路でもそうなのですが、高齢者とか、家族も少なくなっていますが、高年齢とか、家族も少なくなっているところがないような状況や、家を失った人がなかなか立ち上がれないというような形で、現実を持っている矛盾そのものを促進する

ような形になっています。

木村 平等ということに日本は敏感ですが、クラッカーが人数分集まるまで配らないことは平等ではあるけれども、公平な対応ではありません。高齢の方や特別な配慮が必要な方を選び出してある程度優先順位をつけ、一人ひとりの属性の違いにしたがつて手をさしのべなければいけないのに、なかなか現場ではうまく実践されません。原因はいろいろあると思いますが、政治家や行政職員の中に、災害対応のプロが、被災経験が少ないこともあり、幾つかの被災県を除くとほとんどいないのです。

一九四八年の福井から一九九五年の阪神・淡路までを地震の空白期と呼ぶ理学の

研究者がいます。高度経済成長の時代が空白期で、都市を作りあげていく中であまり地震災害を考えなくても良かったわけですが、しかし今は地震の活動期といわれています。これからは行政も、一人ひとりの人間も、災害を生活や命に関わる大きなリスクとして認識し、平時でも知識や能力を高めて適切な対応をしていかなければなりません。この衰退、縮小している日本の国力では大災害を正面から受けては、もはや立ち直れないという危機感を持っています。

歴史災害を学ぶ

——編集過程で東日本大震災があつて、何か追加した項目や、編集方針、意識の上

で変わった点がありますか。

北原 事典全体を見てもみると、日本がどういうふうな災害を乗り越えてきたのかが分かります。その意味では読み物としても、知識を獲得する道具としても、私は大変、現代的に意味があると思っています。東日本も特集として最初に組みました。これはまだ決着のついていない災害ですから結論が出ていないわけはありませんが、とりあえずいま最も近くで起きた災害、熊野川の台風十二号の災害も入れました。歴史的な位置づけも十分やっていますが、できるだけ現実をフォローアップしようという方針は東日本大震災が起きてからです。

木村 『日本歴史災害事典』という書名

ハ木書店

【史料纂集シリーズ】

古文書編45回配本
京都御所東山延暦寺文書
御文庫所蔵
末柄豊校訂

A5判・292頁・13,650円
勅封文書の原本調査による初の全文翻刻!

古文書編46回配本 近刊

籠手田文書

前田育徳会尊経閣文庫編
A5判・350頁・16,800円
肥前キリシタン武将、籠手田氏の文書群を影印・翻刻

日本語・文化・芸能など
広く中世社会を知る

尊経閣文庫本

桂川地蔵記

影印・訳注・索引
高橋忠彦・高橋久子
古辞書研究会編 5月刊
B5判・352頁 21,000円

中世から近世、熱烈に
支持された時衆を解明

中世時衆史の研究

小野澤真 著
A5判・800頁・17,850円

伝統技術を貴重映像に

日本の染と織

製作：伊勢丹 刊行中
DVD版 157,500円
ブルーレイ版 189,000円
昭和30～40年代に撮影した伝統技術を伝える。

* 定価は本体+消費税の総額です
(※詳細内容見本) 書名明記日まで
東京都千代田区神田小川町3-8
TEL 03-3291-2961/FAX-6300
www.books-yagi.co.jp/pub

ですが、歴史だけではなく、今回、松浦先生の理学がかなり入っています。これによってずいぶん内容の厚みが増しました。

松浦 例えば災害と土木、それから地震や火山の概論で、どのようなメカニズムで災害が起きるのか。学理を多少でも知っていると、噴火の時にどちらへ逃げなければいけないとか、そういうことが分かりやすいのではないかと思うのです。

地震学の主流は地震が起きたあとどう揺れるかのサイスモロジー（揺れ学）です。でも、いま必要な地震学は、地震はなぜ起きるのかです。どのような物理的過程をとって起きるのかを調べなければ予測には結びつきません。一つ覚えのように地震の後講釈でプレートがあるから地震が起る、では、地球上にプレートがないところはなんのですから、説明にも何もありません。

今回、異なる分野の人に地震がなぜ起こるのか少しでも分かってもええよう説明を心がけたのは、自分にとってもとても勉強になりました。

木村 歴史という一つの軸で、すべての

項目について自然現象と社会現象とを並べ、人文・社会科学と理学・工学双方の視点から災害を理解することができるとは、今まで日本にはなかったのです。では海外にはあるかという点、特に欧米と比べてですが、実はありません。ヨーロッパはもともと地震災害は日本に比べて少ないですし、水害もゆつくり水が上がつていく大陸の河川の氾濫です。もしかしら世界的に見ても、このように災害の歴史を社会現象と自然現象の両方の側面でもとめた本は初めてかもしれません。

松浦 台風も、戦後、伊勢湾以降、ぐつと小さかったのです。実は地球が温暖化しているかどうかは専門的には意見が分かれています。寒冷化するより温暖化するほうが生き物にとっては楽なのですが、台風や嵐の規模が大きくなります。だいたい百年に一回ぐらい、世紀の終わりと初めごろは、台風が大きかったり、地震が多かったりします。そういう時に日常的に対応できるように、みんなが賢くならないといけない時期に来ているのです。

「首都直下」地震予知の背景

松浦 阪神・淡路の時は地震学はすごく非難を浴び、今回はみんな原発のほうに気がいつてしまっているのが非難を浴びていませんが、私はむしろ、世間の反応とは逆だと思えます。東日本から照らしてようやく阪神・淡路がどの程度の地震であったかということをし正しく認識できるだろうと思えます。

いま首都直下と騒いでいるのは、ここで起きたら被害が大きいかと内閣府が仮りに震源を置いてみたもので、地球科学的には全く切迫性の根拠がないのです。起きるか起きないかも分からない地震で徒に脅か

木村 昔はたくさん「台風災害」がありましたね。

松浦 そうそう、昔は台風というと雨戸を打ちつけるおじさんがいたのですが、今の若い人は知らないですね。

北原 戦後はすぐで、記録だけでも外国人の名前がついた台風が毎年来て、大きい被害を起こしました。この事典の項目を見ても結構多いですね。

松浦 国土が荒れていることもあったとは思いますが。

木村 私は、東日本大震災の前後で、構成の方針も自分が書く内容も変わりました。やはり役立ててもらいたいです。読み物としても成立し、その災害の特徴的な内容について知ってもらおうと将来それが防災への知恵・知識として役立つというようなものを目指しました。

松浦 国際協力で太平洋沿岸に津波警報システムを作るきっかけになったチリ津波ですが、実は明治時代から、南米で大きな地震があると日本で津波の被害があることはわかっていました。ですから、あれだ

していいの。

地震学者の今村明恒が一九〇五年に、東京は五十年に一回ぐらいひどい地震被害を受けていて、安政江戸地震から五十年たつからランプをやめて電灯にしたら火事が減るという文章を書いたのです。十八年後に関東地震が起きて、今村は予知していたのだと、一躍、時代の寵児になってしまったわけです。世間はそんなものでいいのでしょうか。現代市民はもっと賢くならないといけない。あとで責任を取りたくないから何でも起きるかもしれないと言うような無責任な学者に煽られて右往左往してはいけません。

北原 でも、首都直下で莫大なお金がか

朝鮮半島問題と日本の未来

新刊

姜尚中著 1,575円
北朝鮮問題、領土問題、震災・原発、TPP……今、本が選ぶべき道は？熱く語った沖縄での講演全記録。

星条旗と日の丸の狭間で

新刊

証言記録 沖縄返還と核密約
具志堅勝也著 1,890円
佐藤栄作首相の密使となった若泉敬に、沖縄でただひとり接触できたジャーナリストが初公開のインタビュー資料を駆使して「沖縄返還と核密約」の真実に迫る。

戦争の記憶をどう継承するのか

広島・長崎・沖縄からの提言
沖縄大学地域研編 1,890円
次世代への戦争記憶の継承をテーマとした、広島修道大学・長崎大学との公開講座の記録。

チベット学問僧として生きた日本人

多田等観の生涯

高本康子著 1,890円
明治末～大正期に秘かにチベットに入り、ダライラマ13世のもとで10年間修行した僧侶の生涯を追った評伝

近世海運民俗史研究

逆流 海上の道
胡桃沢勘司著 3,990円
松前や酒田や隠岐島や老松島や五島列島や種子島や奄美大島。北前船が活躍した時代の西廻り航路の要所7ヶ所をとりあげ昆布を中心とした海産物交易の諸相を明らかにする

芙蓉書房出版

東京都文京区本郷3-3-13
TEL03-3813-4466 ▼ 価格税込

ここの流れに構造的なものは、これは仕掛け人があるのではないですか。

松浦 マグニチュード七・三という数字も全く科学的根拠はありません。

北原 首都直下の歴史地震、安政江戸地震はM六・九か七ということですが。

松浦 でも、安政江戸地震は今騒がれているより震源が深いのでM七でも距離が稼げて都心のゆれは弱くなります。

木村 深い地震ですよ。首都直下は浅いですよね。十キロとか。

松浦 従来より十キロ浅いというのも二〇〇五年に論文が出ていて、今さらの話ではないのです。地震学者、工学者、あるいはマスコミもチェック機能を果たしていないのです。東海予知騒ぎも、明日にも起こるかもしれないと言っても四十年たつのに起きません。あそこだけでは起きたことはないので。私たちは冗談で「内閣府が想定すると起きなくなるからいい」と言ったりしています(笑)。どうしてこれだけ騒ぐのか。

北原 でも、世の中はそういう状況で動

し起きたときには命をも奪いかねない低頻度大被害という事象に対しては、大切な意識になります。

減災へのバイブルとして

——この災害の項目が読み応えがある、もしくは、ぜひ読んでほしいというものはありますか。

木村 やはり、人によって反応するところが違うと思うのです。沿岸部に住んでいる方はやはり津波に目がいくと思います。そして内陸型の地震が過去にあったりすると、やはり内陸型地震のところに目がいきます。あと地域によって、自分が例えば関東地方に住んでいたらやはり関東の災害に目がいくと思いますし、東北の方はやはり東北の災害に目がいくと思います。あらゆる読者にある程度対応した素材を提供している、どんな地域に住んでいても、どんな自然災害を考えている人にも、見ていくうちに何がしか自分にあてはまるものが存在します。

事典を作るにあたって、項目の選定に時

いていますよね。やはり民衆の行動を明らかにしないことには、歴史を動かすのは大衆ですから。

松浦 でも民衆は本当に「え、どうしてそっちに行くの」というような方へいつも行ってしまう。東日本の時にショックだったのは、二〇〇四年にスマトラの地震がニュースで繰り返し流され、津波がどんなに恐ろしいかはよく分かったと思うのです。それが、たった六年ちよつとですっかり忘れ、あんなに揺れたのに逃げない人がいたというのは非常に悔しく、驚きです。

木村 スマトラを題材にした講演は、日本では、和歌山でも、三重でも、一部の人を除いて、実は反応が良くありません。

「他人」のところの災害だからです。あれは発展途上国で起きたものだから。ですから講演では、一九四四年の東南海とか一九四六年の南海などを使い、スマトラ地震はあまり使いません。

松浦 でも、あれだけテレビで見ても、あんなに揺れて、まずいと思わなかったというのは、とても残念です。

間をかけました。理科年表や既存の報告書などを集めたうえで、特に被害が大きかったものや社会に影響を与えたもの、特殊な事例で教訓として残さなければいけないものなど、何回も話し合いながら厳選していきました。

そのようにして厳選していった個別の災害をもとに、バックボーンとなる総論があり、一方で災害と土木、災害と法律というような各論や、災害の種別にまとめた各論も用意しています。そういう意味では、かゆいところに手が届くものになったのではないかと思います。

北原 ともかく、いろいろな人に書いていただき、今までの自分のつながりを全部ここで生かしたことが一番うれしいです。これだけ第一線の研究者の方々が書いてくれたことはすごく意味があります。今の段階で本当に活躍している信頼できる人たちの記述だということが、読者に非常にいい結果を生むのではないかと気がします。

松浦 日本人は火災だけは制圧したと言えます。これは人間の失火が非常に大きな

木村 それは調査したことがあります。起きると思っただけでも、自分との関わりがうまくイメージできない。自分は死なない、けがしないという前提です。

松浦 でもなぜか、首都直下の発生確率が、四年で七〇パーセントというのは強く反応しています。そういうのが好きなんですよ。

木村 人間の人生の中で、四年というのはすごくイメージしやすいですよ。七十年で何パーセントと言われても、私の年齢に七十足したら百を超えています(笑)。

松浦 ただ、四年後に起きなかった場合の反応が怖いんですよ。

北原 もう忘れてますよ。

木村 四年後の時点で、あと四年後に八二パーセントに上がりましたと言われれば、人のリスク意識は継続するかもしれませんが「四年で七〇パーセント」の数値の是非はともかく、このように災害を身近に感じ自分に関係する出来事として思う「わがこと意識」は、人生で一度あるかないか、ただ

要素で、そこをコントロールできたからだと思います。風水害もかなり減りましたが、地域により全然様相が違いますし、これをきつかけにもっと地域で取り組んでもらわないと教訓になりません。風水害の歴史はまだ全体像を概観できるまでになっていません。巻末の「日本災害略年表」も今後さらに均質な内容となるよう精査が必要だろうと思われまふ。それでも日本全体の種々の災害を対象とした年表がありませんでしたから、これが一つの出発点になればよいのですが。

——どうもありがとうございました。

(二〇一二年三月十九日)

【編者紹介】

(きたはら いとこ) 一九三九年生まれ。現在、

立命館大学歴史都市防災研究センター教授、

(まつら りつこ) 一九五六年生まれ。現在、

公益財団法人地震予知総合研究振興会 地震

調査研究センター解析部長

(きむら れお) 一九七五年生まれ。現在、兵庫

県立大学環境人間学部/大学院環境人間学研

究科准教授

本郷

2012.7 NO.100

ミュージアム・コレクション 横山大観記念館 池田博子
百話百言 炭素14年代法の較正年代 白石太一郎 1

通巻100号記念特集 歴史と私 2

池内 紀／上田正昭／大塚初重／佐々木宏幹
瀬野精一郎／直木孝次郎／中野三敏／平野邦雄
峰岸純夫／山折哲雄／脇田晴子

江戸時代の医師からのメッセージ 青木歳幸 14
豊島区目白の庖丁道と造酒司 西村慎太郎 17
〈文化財〉取材日記 考古学報道が背負うもの 中村俊介 20

変貌するスサノヲ神話へ 斎藤英喜 23
明治時代史大辞典ウォーク 明治の出版事情(4) 26

古城をゆく 河後森城 中井 均 28
歴史のヒーロー・ヒロイン 英祖王 又吉栄喜 31

鼎談 災害の歴史から学ぶ 32

北原糸子 × 松浦律子 × 木村玲欧

内容別総索引(第51号～第100号) 45

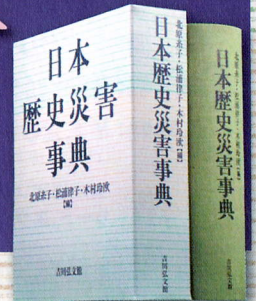


吉川弘文館

貞観年間から東日本大震災まで
人文・社会科学、理・工学の最新成果を結集
画期的な〈災害総合事典〉! 『内容案内』送呈

日本 歴史災害 事典

好評
発売中



北原糸子・松浦律子・木村玲欧編

15750円 菊判・上製・函入・876頁・原色口絵16頁
978-4-642-01468-7

貞観年間から2011年まで、日本列島を襲った地震・津波・噴火・台風・火災などの災害を収録。人文・社会科学、理・工学など関連分野の第一人者を結集し、災害のメカニズム・被害・復興・防災などの総合的な視点から書き下ろす。個別の災害項目に加え、専門用語解説・コラムも充実。これからの防災・復興を考えるための画期的〈災害総合事典〉。

〈本事典の特色〉

災害の歴史から防災と復興を考える、初めての〈災害総合事典〉

貞観年間より2011年にいたる、地震・津波・噴火・台風などの災害を個別に詳説
理学・工学、歴史学、社会科学など、関連分野の研究成果を結集した画期的編集
個々の災害項目に加え、各分野の用語解説や、災害と現代社会を考えるコラムも充実
特集として巻頭に「東日本大震災」を重点掲載

〒113-0033・東京都文京区本郷7-2-8
電話 03-3813-9151 〈代表〉

吉川弘文館

2012年版『出版図書目録』送呈
FAX 03-3812-3544 / 価格は5%税込
<http://www.yoshikawa-k.co.jp/>

発行者＝前田求恭 発行所＝株式会社 吉川弘文館 〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151代表 FAX.03-3812-3544 振替口座00100-5-244
印刷所＝株式会社 平文社 ©吉川弘文館 本誌の記事は無断転載をお断わりします
吉川弘文館のホームページ <http://www.yoshikawa-k.co.jp/>